同窓会だより

在京岐高同窓会

会長　宮本　悠美子
昭和34年卒

在京岐高同窓会は、平成二一年創立七三年を迎えました。七〇年以上も在京同窓会が継続出来ておりますことは、岐中・岐高女・岐高卒の沢山の先輩方の母校を愛する心と、ご努力のお陰だと深く心より感謝致しております。

平成二一年度総会は、六月二八日に二三六名の出席をいただき盛大に開催されました。当日は御多忙な中を母校同窓会の森川幸江会長代行、田村弘司校長、杉本尚子先生、恩師近松隆夫先生に、御祝辞ご挨拶を頂き大変嬉しく思っております。

イベントは、ゲストとしてお迎え致しました三味線の杵屋勝哉先生（長良高・東京芸術大学邦楽科卒）にご指導していただき昨春東京芸術大学邦楽科を卒業しました杵屋勝亀哉さん（本名坪井一将、岐高卒・東京芸術大学邦楽科卒）、長唄の杵屋勝利郎さん、杵屋三美郎さん、四人の演奏と唄で素晴らしい歴史と邦楽の世界を学ばせていただきました。普段なか〳〵接することが出来ない三味線と長唄の響きに皆様大感動致しました。当番学年四三年卒・五三年卒の皆様の責任感・結束力・伝統力の素晴らしさを感じております。一年間の準備本当にご苦労さまです。

今年二二年度は、春日井邦夫さん（四一年卒）率いる「トリオ・ポルテーニョ」による「アルゼンチンタンゴ」の演奏をお願いしております。大変楽しみに致しております。当番学年は四四年卒・五四年卒です。昨年九月から役員・学年幹事・当番学年の皆様のご協力で二二年度総会にむけて頑張っております。これこそ本会第一条「会員相互の交誼を厚くすることを目的とする」を忘れることなく増々発展していきますよう願っております。二二年度は下記のスケジュールで開催の予定です。例年恩師の先生、岐阜の皆様、全国各地から出席していただいております。皆様にお逢い出来ますことを楽しみに致しております。

三味線の　杵屋勝哉先生
　　杵屋勝亀哉さん
長唄の　杵屋勝利郎さん
　　杵屋三美郎さん

平成22年度
在京岐高同窓会総会のお知らせ

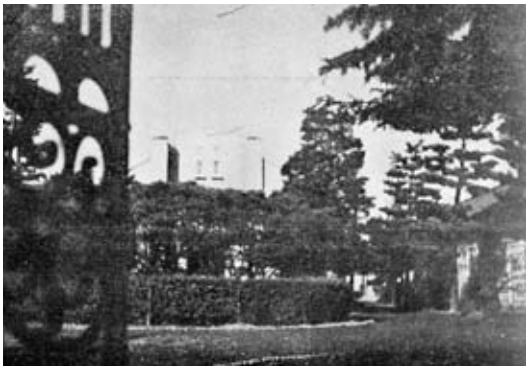
日時　平成22年7月11日(日)
　　11時～14時30分
場所　ANAインターコンチネンタルホテル東京

岐阜中学校『華陽』第百號記念誌　紹介

岐阜高校の前身である岐阜中学には華陽会という組織があり、定期的に会報が発行されていました、その百號記念誌の現物が編集部に届けられました。

昭和一二年の頃の学校の様子を知るのに貴重な資料であり、ここにその概要をご紹介します。

誌名　『華陽』第百號
發行　昭和十二年十月七日
編輯兼發行者　岐阜市京町一丁目卅番地　杉山巳之吉
發行所　岐阜縣岐阜中學校　華陽會
ページ数　一九五ページ



舊校舎を去る

校　葬

門　衛　所

玄　関

〈グラビア〉
内容
・毛利校長が急逝、校葬がとり行なわれた様子
・京町校舎から大縄場校舎への移転にあたり
旧校舎の写真と想い出
・スポーツの部活動（野球、陸上競技、庭球、蹴球）
〈本文〉
◇毛利校長追悼
◇投稿写真
◇ペンコンクール
テーマ　五年生　「批判」
四年生　「或對話」
三年生　「凉台一夕話」
二年生　「僕の漫談」
一年生　「お伽噺の後日物語」
優秀作には、華陽章が贈呈される
◇投稿ペン画、書、詩、俳句、短歌、エッチング
◇随筆、小論文
◇部報（前期）　戦績等の紹介
・應援部　應援部改革の成果
・蹴球部　中部中等蹴球大會優勝
・陸上部　近縣中等學校陸上競技大会優勝
・柔道部　八　高　主　催全國柔道大會
三重高農主催全國柔道大會
名高商主催全國柔道大會
縣下柔道大會の戰績
・庭球部　新愛知新聞社主催
近縣中等學校庭球大會等
戰績紹介と新チームプロフィール
・野球部　第一回県下五中學リーグ戦　全勝優勝
縣下中等學校春季野球リーグ戦　一勝二敗
対市岡中學定期戦　敗戦（0対四）

さくら

校　旗

植物園裏

校　舎

時　鐘

藤の花

・劍道部　八高主催劍道大会　三回戦敗退
松本高主催近縣中學劍道大会　準決勝敗退
皇學館主催近縣中學劍道大会　二回戦敗退
縣下中等學校武道大會
六戦全勝するも総点数で二位
・射撃部　八高主催近縣中等學校狭窄射撃大會
二位（三年連続優勝ならず）
・辯論部　下級生辯論大會の報告
彦根高商主催近縣中等學校英語雄辯大會出場
・文庫部　華陽文庫の活動報告と購入書籍紹介

◇第二學期　行事豫定（十月～十二月）

◆十　月
五　日（火）・上級辨論大會
一七日（日）・神嘗祭・陸上運動會
二三日（土）・東海陸上選手権大會兼神宮豫選大會
（於鶴舞公園）
三〇日（土）・勅語奉讀式

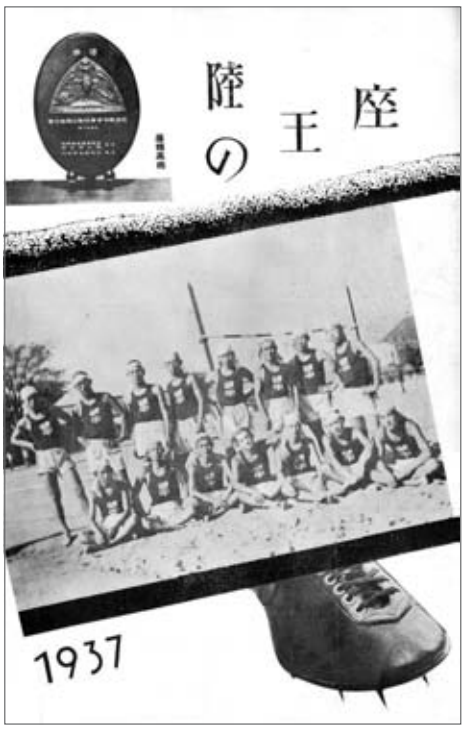
◆十一月
一　日（月）・午前八時半始業
三　日（水）・明治節拝賀式
四　日（木）・本校創立記念日（休業）
七　日（日）・本日ヨリ精神作興週間
十　日（水）・國民精神作興詔書記念日
・詔書奉讀式
二一日（日）・中等學校職員庭球大會（於岐中）
二三日（火）・新嘗祭
二四日（水）―二六日・第二回實力考査

◆一二月
二四日（金）・終業式
二五日（土）・大正天皇祭・特別授業開始
三〇日（木）・特別授業終了

部　報

庭　球

蹴　球



陸　上

野球／体操

◇昭和十一年度
決算　總収入七〇六一・二二円　總支出五二五二・八三円

昭和十一年度決算

（収入ノ部）

摘要	豫算	實收	増減
各部ヘ繰セザル前年度繰越	116815	116815	
各部ヘ繰セザル前年度繰越	31123	31123	
職員會費	15000	15000	
生徒入會金	19700	20500	+800
生徒會費	489500	510050	+20500
雜收入	3000	4234	+1234
小計	675138	697722	+22584
御日新開墾寄附（野球部へ）		8400	
合計	675138	706122	+30984

（支出ノ部）

	豫算	追加豫算	本年度支出	後年度繰越
	豫算及前年度繰越			
雜誌	56279		54356	1923
文庫	16854		16854	0
辯論	8307		3496	4811
應援	10887		10832	55
劍道	44038		43387	651
柔道	43932		41702	2230
陸上	43553		42771	782
野球	821144	8400	89815	729
庭球	59469		48815	10654
蹴球	64743		59594	5139
水泳	13240		11699	1541
運動會	22500		22500	0
射撃	2800		2646	154
園藝	7831		1405	6426
豫備	198571		75411	123160
合計	675138	8400	525283	158255

本年度總收入　7061.22　總支出　5252.83
差引殘金　1808.39

◇昭和十二年度　豫算　總豫算七一四二・三九円

昭和十二年度豫算

（収入ノ部）

摘要	金額
各部ヘ繰セザル前年度繰越	22584
職員會費	15000
生徒入會金	20400
生徒會費	495000
雜收入	3000
小計	555984
各部ヘ繰スル前年度繰越	158255
合計	714239

（支出ノ部）

	豫算	前年度繰越	計
雜誌	49500	1923	51423
文庫	16200	0	16200
辯論	6300	4811	11111
應援	9000	55	9055
劍道	40950	651	41601
柔道	37800	2230	40030
陸上	30600	782	31382
野球	81000	729	81729
庭球	43200	10654	53854
蹴球	60300	5139	65439
水泳	12600	1541	14141
運動會	22500	0	22500
射撃	4500	154	4654
園藝	4500	6426	10926
豫備	137034	123160	260194
合計	555984	158255	714239

◇上級學校入學者氏名

昭和一〇年卒業生　二〇名
一一年卒業生　三五名
一二年卒業生　六六名
四年終了者　六名

投稿写真

長良風景

港所見

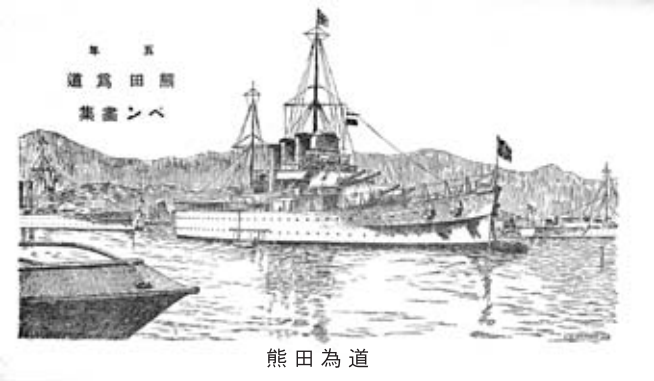
或コンストラクションの明暗

いかだ

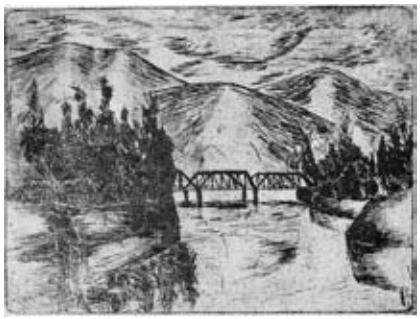
春の流れ

白い花

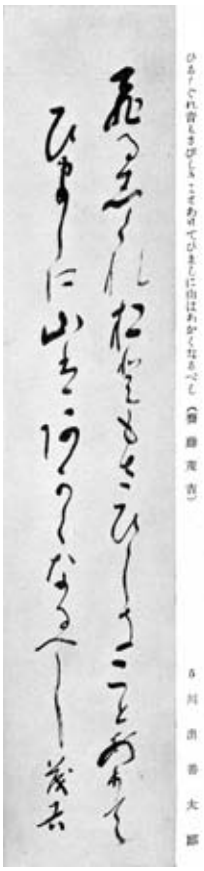
投稿ペン画・書・詩・俳句・エッチング



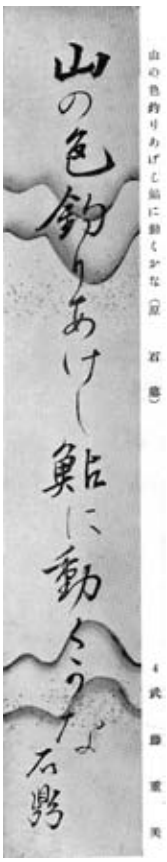
熊田為道



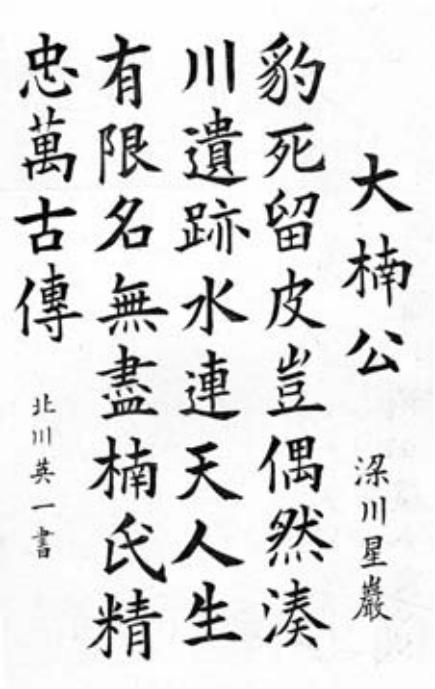
エッチング画（三年城澤弘）



川出善太郎



武藤重美



北川英一

俳句

川出善太郎

長閑さや眞似てもみたき地築唄
若草や空地々々の水溜り
蒲公英や校舎の裏の長堤
春風や掛矢の響きのみの音
揚雲雀島でありし新校舎
から木立つ校舎の棟の人霞む
校庭の南に續く菜の畠
永き日を工事監督の長煙管
砂利を曳く馬のいたはし玉の汗
工事なかば進みて初夏に入りにけり

編輯零墨

★前校長毛利大順先生の御逝逝は、寒に我等の涕歎に勝へない所である。温柔敦厚なりし先生の御遺恩は、末永く我等が胸に殘存することゝ信ずる。諸子と共に、謹んで先生の御冥福を祈念する次第である。

★九月八日、新校長成田和郎先生を我が學苑にお迎へした。今後は先生を中心として和協一心、がつちりとスクラム組んで、更に次なる大躍進を期さなければならない。

★新編成れる第百號を、秋宵燈下の諸子へおくる。百號といへば、類誌中恐らくは最古のものであり、創刊號でも現存するならば、蓋し稀覯本に屬するだらう。

★この百號記念の意味で、ペン・コンクールなるものを催した。本誌初の試みであつて、全校生徒應募、實に本號のメイン・イヴェントたるを失はぬ。

★各學年いづれも、選者の精嚴なる判鑑を經たことは言ふまでもない。入賞者には、予告した如く、信長の印章を意匠とした華陽章を贈呈する。岐中生活好個の記念品となる事だらう。

★收載せる學校關係の寫眞の大半は、西村英（五年）、一部は川出善太郎（五年）の手に依つてゐる、非凡なるカメラアートを認めていたゞき度い。

★カットも少數ながら、堂々たる素人離れのしたものである。石水文雄（二年）・五十嵐勝郎（五年）の清新なブラッシュである。その他エッチング・木版・ペン畫・書道等、此の方面の佳作をも御感賞願ひ度い。

（殿岡辰雄）

華陽

昭和十二年十月二日 印刷
昭和十二年十月七日 發行
（非賣品）

編輯兼發行者 岐阜市京町一丁目卅番地 杉山巳之吉
印刷者 岐阜市朝日町六番地 村山德一
印刷所 岐阜市朝日町六番地 萩野印刷所 電話二〇二七五番
發行所 岐阜縣岐阜中學校 華陽會

100

194

『華陽』第百號の編輯零墨／奥付

◆岐阜高校創立一二〇周年記念誌に掲載された関連年表

一八七三年(明治 六) 岐阜町小学義校及び付設中学設立
一八八〇年(明治一三) 師範学校と合併「華陽学校」と改称
一八八三年(明治一六) 華陽学校に師範部・中学部の別を設ける
岐阜県農学校を合し、校地交換
中学部は京町へ移転
一九三三年(昭和 八) 「中学移転改築案」県会通過
一九三七年(昭和一二) 岐中、移転先の大縄場敷地で地鎮祭
一九三八年(昭和一三) 岐中、京町校舎校庭にて惜別式挙行
大縄場新校舎へ移転

○『華陽』誌について

一八九〇年(明治二三) 学術講談会設立
学術講談会雑誌発行
一八九五年(明治二八) 同雑誌発禁となる
一八九六年(明治二九) 華陽会結成
『華陽』第1號発刊
以後、年2回～5回のペースで発刊

※『華陽』の一号から五〇号までは東京大学図書館に納められていると紹介されています。

学術講談会と華陽会

明治23年（1890）、学術講談会が設立された。これは職員・生徒から構成され、「智識ヲ交換シ傳ラ弁舌ヲ錬磨スル」ことを目的とした団体であった。その機関誌といった形で発行されたのが、「学術講談会雑誌」である。菊判2段組30ページ前後で毎月発刊され、職員・生徒等が論文、文芸等の作品を発表した。初期の編集委員の中には、高木貞治氏（数学者、のち文化勲章受章）の名前も見られる。

その「講談会雑誌」が、明治28年40号を以て発行禁止処分となった。禁止の明確な理由は公式には示されていないが、論説などに学校・県当局を刺激する不穏当なものがあったと想像される。その後、学術講談会は運動会（運動部の団体）と合併して「華陽会」が結成され、雑誌は「華陽」と改題されることになる。

↑岐阜高校創立 120 周年記念誌より抜粋

求む！『華陽』誌のバックナンバー

『華陽』誌は、創刊号から第101号「竣工記念版」まで、県立図書館に保管されています。しかし、以下の号が欠番となっています。

第35号・第38号・第38号～第63号・第65号～第67号・第69号～第79号・第82号～第90号・第92号～第100号・102号以後、発行されたかどうかは不明です。

欠番の『華陽』をお持ちの方で県立図書館へご寄与いただける方がありましたら幸いです。

編集部調査班

藍水くらぶ創立一〇周年記念誌『藍水』第一号
及び二〇周年記念誌『藍水』第二号

藍水くらぶ 五〇年の活動に幕

2009年(平成21年)10月3日　土曜日

変わらぬ友情誓う

「藍水くらぶ」50年の歴史に幕、記念祝賀会

岐阜高女同窓生 330人、名残惜しむ

岐阜高等女学校（現岐阜高校）卒業生有志でつくる「藍水くらぶ」の結成50周年と、岐阜高女の創立110周年を記念した祝賀会が2日、岐阜市長良福光の岐阜都ホテルで開かれた。50年を区切りに、会の活動に幕を下ろすことになり、名残を惜しむ同窓生らが全国から集い、変わらぬ友情を誓った。

岐阜高女は1900（明治33）年に開校。48年に新学制で岐阜第一高校と統合され、岐阜高校となった。同くらぶは、岐阜高女生の60年に結成され、毎年、懇親会を兼ねた総会を開いて旧交を温めてきた。

祝賀会には、76歳から93歳までの約330人が出席。村瀬喜代子代表は「会員も高齢となり、運営が難しくなった。これからは岐阜高同窓会とともに活動したい」とあいさつ。「さわやかな知性のある岐高女スピリットを持ち続けましょう」と呼び掛けた。

会の発展に寄与した役員らの表彰や、日本舞踊、合唱の披露などもあり、会場は始終和やかな雰囲気。最後に全員で岐阜高女校歌を合唱した。

全国から会員が集い、旧交を温めた「藍水くらぶ」の祝賀会＝岐阜市長良福光、岐阜都ホテル

＊ 岐阜新聞記事

岐阜県立岐阜高等女学校

岐阜県立岐阜高等女学校の歴史は、明治三三年に始まる。その後、明治、大正、昭和と四〇年以上にわたり、岐阜高等女学校（以下岐高女）は、岐阜県の女子教育をリードする存在であった。

第二次世界大戦のあと、昭和二三年三月、岐高女は岐阜女子高等学校となり、同年八月、岐阜県岐阜第一高等学校との統合により、岐阜県立岐阜高等学校となった。

岐高女と藍水くらぶ

藍水くらぶは、その岐高女同窓生有志が、母校懐旧の思いから、昭和三五年に発会させたものである。当時岐高女同窓生全体が独自に集まることはなく、各学年の同窓会が別個に活動していただけであったため、鷲見英子さん（大正五年卒・故人）が発起人となり、岐高女卒業生全体の親睦を目的に会を作られたものであった。その後学年同窓会が解散し藍水くらぶに集合するケースが増え、同会は岐高女の実質的な同窓会の役割を果たすようになった。

この間藍水くらぶは、毎年の総会と一〇年ごとの記念大会を開催するほか、創立一〇周年及び二〇周年にそれぞれ記念誌『藍水』第一号と第二号を発行、それ以外にも福祉施設の慰問ボランティア、災害見舞いや福祉施設への寄付、テレビ出演など、特に昭和の時期に多彩な活動を行なった。

しかし会員の高齢化に伴い、平成二一年一〇月、岐高女創立一一〇周年と藍水くらぶ創立五〇周年を記念する祝賀会を最後に、会の活動に幕を下ろした。

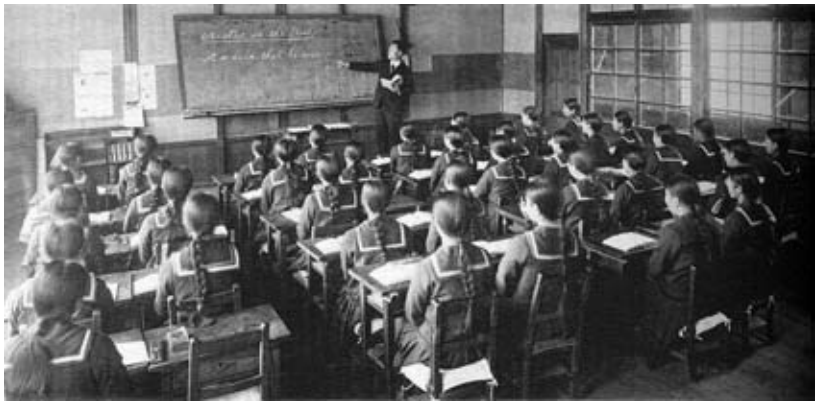
岐高同窓会と藍水くらぶ

藍水くらぶ会員の方々には、これまでにも岐阜高校同窓会の会員として活躍していただいている。藍水くらぶは幕を閉じたが、今後とも岐高同窓会のメンバーとして、岐阜高校及び同窓会の発展のために、一層のお力添えをお願いできれば幸いである。

なおこれを機に、岐中と共に岐高の前身である岐高女の歴史を振り返りながら、藍水くらぶの歩みを三部に分けてたどってみたい。

藍水くらぶ特集　その一

想い出の岐高女



英語の時間

学校正門のイラスト

數學の時間

國語の時間

岐阜高等女学校
1932年卒業アルバム

岐高女風俗史

先生　明治時代
丸まげ　紋付の羽織・袴

先生（束髪）
明治・大正時代
紋付・袴

創立時代（明治三十三年以降）

生徒　日本髪（ももわれ）後姿
袖丈一尺寸　袴にはまだ二本線なし

大正時代（初・中期）一尺七寸袖
袴・木綿の着物・日和下駄で質素倹約をむねとした
蓮沼校長時代になりリボン・お下げ髪禁止となる。

大正時代の運動の服装
くくり袴
地下足袋

圓 書 室

氣 象 観 測

楽しき夕食（寄宿舎）

大正初期の岐高女生

運動會の思い出

岐高女第一回卒業記念写真（明治三六年三月）

音 楽 會
（公會堂にて）

このページの写真は、岐阜高等女学校一九三二年卒業アルバム及び『藍水』第一号からから抜粋しました。
イラストは『藍水』第一号から転載しました。

大正時代（後期）
木綿の着物・日和下駄、昭和の初期になり元禄袖となる。

蓮沼校長の英断により昭和四年にセーラー服と改正。お下げ髪となりオカッパ禁止

昭和十年頃の制服

先生の式服　昭和十七年頃

体操の時

昭和十八年頃大東亜戦争が始まり本土空襲にそなえスカートよりモンペとなる

新制服の衿は物資不足のためセーラー衿を倹約

藍水くらぶ特集　その二

藍水くらぶの歩み

藍水くらぶの五〇年に及ぶ歴史を限られた紙数でたどるのは至難の業である。ここでは一〇周年記念誌『藍水』第一号から「巻頭のことば」を転載し、ついで会員三名の方の文章と短歌、さらに第二〇回から第五〇回に至る記念大会の写真を掲載することによって、その片鱗を伝えたい。

巻頭のことば

御挨拶

大正五年卒　鷲見英子

明治三十三年山紫水明のこの景勝の地に生まれた岐高女は、古稀の寿を迎えました。又何となく生家が恋しくて結ばれた藍水くらぶは今年で十年目になります。

第一回御卒業の中島先生は、岐高女で長年藍水同窓会のお世話をして頂き、今尚ご健在で私達を励まして下さいますし、先輩の方々も引続き岐高の役員として御活躍中ですので、茲許　玉稿を頂いて岐高女及び藍水同窓会と藍水くらぶのありし日を偲び、現在の様子を永久にお伝えしたくて、記念号を発刊する事になりました。

思えば戦災で焼失した雲雀ヶ丘の校舎を復興する為、東奔西走して寄附金を集め、漸く自力で第一期工事が完了した処で、統合の為とはいい乍ら、本荘中学へ明け渡し、焼け残ったあの美しい同窓会館を大縄場へ移築して頂くのをせめてもの慰めとして、名門岐中へまいりました。

其后現在に至る二十二年間、私達は岐高同窓会員として、八十周年祝賀の為、或は本館建築並びに九十周年祝賀の為寄附金を集めたり、名簿作製、販売等に協力してまいりました。母校も又私達の為に岐高女創立五十年、仝六十年の祝賀同窓会を開いて下さいました。かくて私達は藍水の流れも滔々として岐高へ引継がれ益々隆盛に向かっている母校を誇とし、心からの喜びとして居ります。

さり乍ら今私達が岐高へ立寄ってみましても岐高女出身の先生もいまさねば、唯一つの心の拠り処であった白亜の殿堂も今は跡形もなく、一抹の哀愁を覚えます。

懐旧の情止み難く結成された藍水くらぶは年毎に会員の数もふえ、千二百余名となりました。毎年当番幹事の方々の献身的な奉仕の下に催される総会は、同窓会ならではのものでございます。ここ三四年来、ご出席者二百四五十名に及び誠に和気藹々として、終日この日許りは皆様常よりは四つ五つもお若く、お互に昔に返って、懐しい歌を唱い、笑い興じて時の移るも知らず。噫この愉しさ！気易さ！さればこそいつも会場一ぱい華やかな宴げが繰り広げられるのです。舞台では次々と会員の仕舞・寸劇・踊と興を添えられ、いとも和やかに再会を約して惜しき袂を分かつ事でございます。

徒らに過去をふり返って許りいてもいけませんが、私は優れた先輩と溌剌たる若い方々の息吹きにふれて常に啓発されて居ります。

曽って名門と謳われ香り高い校風を身につけた筈の私達は、お互いに手をとり合って母校岐高の繁栄と、藍水くらぶの発展に努力いたしましょう。

終わりに臨み御協力頂いた先生方並びに会員の方々に感謝し、皆様の幸多からむ事をお祈り申し上げます。

1

岐高女生ここに集ひて
惜別の五〇周年総会

旧藍水くらぶ会長　村瀬　喜代子
昭和一四年卒

昭和の戦中、戦後の激動により、岐高女は、名門岐阜中学と岐阜高校に合併、男女共学となりました。県下一の伝統と歴史の岐中との統合は喜びでしたが、北野町の並木道、白木蓮の校舎、雲雀ヶ丘の校舎　同窓会館等　青春の日々の思い出が心に懐旧の情止み難く、鷲見英子様代表で藍水くらぶが結成され、以後毎年会員はふえて踊・仕舞、寸劇、コーラス、シャンソン、フォークダンス等々、楽しい面会の一日に、出席できる仕合せを思い来年の再会を期したものでした。

総会は当番制にて二学年の会員がはりきって出演下さる、盛大な同窓会でした。

平成二一年度
岐阜高女創立一一〇周年
藍水くらぶ　五〇周年　記念祝賀会
平成二一年一〇月二日
於　岐阜都ホテル
一番若い方七六才から九三才まで

岐中と岐高女の思い出は、岐中昭和一九年卒同窓会編『われらが青春残像　岐中思い出の記「八月十五日」と私』に、少し記させていただきました。

岐高同窓会の皆様は私共、藍水くらぶ会員をあたたかく迎え入れて下さいました。今年からは皆様お誘い合わせの上、岐高同窓会にぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

短歌三首

足立　美代（昭和一六年卒）

激動の時代乗り越え我が友等（ら）
今静かなる日々に輝く

五十年楽しき集いに幕閉じる
淋しさ胸に行く雲眺む

見守りし金華の山と長良川
今閉ず淋しさ知るや知らずや

式次第

（十一時開会）　司会　足立　美代（昭16）

一、開会のことば　余興　司会　小石とみ子（昭23）
一、物故者慰霊黙祷　全員
一、創立記念日の歌（姫小松）　全員
一、挨拶
藍水くらぶ代表　村瀬喜代子（昭14）
一、御来賓ご挨拶
岐阜県立岐阜高等学校校長　田村　弘司　様
岐阜県立岐阜高等学校同窓会　会長代行　森川　幸江　様
一、御長寿会員お祝贈呈　司会　武藤　久子（昭18）
御祝のことば　藍水くらぶ代表　村瀬喜代子（昭14）
お礼のことば　長寿者代表　久保寺順子（昭17）
御長寿お祝の歌　大久保幽香
・乾杯の歌　グノー
・アヴェマリア　グノー
一、功労者表彰
お礼のことば　山田　一枝（昭13）
一、前年度会計報告　田代　里江（昭19）
一、乾杯　岐阜県立岐阜高等学校同窓会　元会長　杉山　幹夫　様
一、日本舞踊　西川　鯉房（鈴木隆子・昭20）
長唄「長良の鵜飼」　西川　春菜（堀井淑子・昭22）
西川　房栄（岡田玲子・昭23併中）
西川　君子（丹羽君子・昭20）
一、健康体操
日本おどりスポーツサイエンス（NOSS）
（西川流家元西川右近企画）
一、シャンソン独唱　シャンソン歌手　遠藤　伸子
・パリ・シリーズ
・生きる
一、合唱　指揮　五十嵐東美
ピアノ伴奏　和田　早苗
雲雀ヶ丘合唱団有志
・タンホイザー
・美しく碧きドナウ
・別れの曲
一、岐阜高女校歌合唱　全員
一、閉会のことば　市橋智恵子（昭15）

出会いの場

本多 美智子
昭和一九年卒

平成二一年一〇月、「藍水くらぶ」は五〇年の歴史に幕をおろした。

昭和五年卒業の鷲見英子様が、学年だけの同窓会とは別に、卒業生全員を対象にした集いを提案されたのが始まりで、初めは少人数だったが、年々増え続け、最後は三百余人になっていた。毎年秋に総会を開催。主な会場は市内の一流ホテルであったが、名古屋キャッスルや下呂の水明館へ出かけたこともあった。

総会は先輩後輩各一〇人ほどが当番として運営。翌年の二月に当番の慰労会が、次の当番の担当で行われた。少数の会なので、旅館の和室が使われることもあった。会食後のひとときに、鷲見会長がクイズ遊びをされる。「貴〇花」の〇に入る文字とは? とか、百人一首の有名な歌の作者名当てや、上の句に下の句をつけるなど、常識問題であったが、書けない先輩もいた。

一〇年毎に記念大会が行われた。有閑マダムの衣裳比べだから嫌いという声もあり、比べる衣裳のない私は、初めの頃は不参加を決めていたが、『藍水二号』の編集を手伝った縁で入会。三〇周年記念大会に出席した。鷲見会長は黄色地の裾模様、先輩の役員女史は派手なドレスに金色のパーティシューズ。総会毎に衣裳の新調は当たり前の人たちで、会場はさながらファッションショー。

総会の当番は余興のノルマがあり、白いブラウスに黒いマキシで歌曲を合唱したり、名取りさんたちの日本舞踊など、いわゆるお品のいい演目に限られていたが、鷲見会長が亡くなられると、演歌やコメディーが幅を利かせるようになり、頬に赤い唇の形をつけて帰宅した夫を、角を生やした妻が箒で追いまわすという笑劇も演じられた。出色は一六年卒の「新版金色夜叉」。尾崎紅葉の名作を、脚色構成演出主演と、八面六臂の大活躍は足立美代様。舞台の書割りは金華山の上に輝く一七日の月。熱海の海岸ならぬ長良川畔を歩くのは、ヒラヒラの赤いドレスにパンプス、手造りされた特大のダイヤの指輪が目立つ宮子と、学帽に黒いマントの貫一の二人づれ。富豪の富山に嫁ぐという宮子を、貫一が愛の力で引止めようとするも、宮子は「愛情では何も買えない。お金がなければ生きられない。私はお金が大好きよ」と高らかに歌う。車のクラクションが聞こえ、モーニング姿にシルクハットの富山が現れて、「宮ちゃん、ベンツが待ってるよ」と呼びかける。宮子は止めようとする貫一の頬を思い切り叩く。「痛ッ」と頬を押さえた貫一の掌が離れると、頬には真っ赤な丸い紙がペタリ。クラクションが遠ざかり、くやし涙で月を仰ぐ貫一。会場爆笑。

平成一一年九月。岐高女一〇〇周年藍水くらぶ四〇周年合同記念大会が、岐阜グランドホテルで開催された。出席者六百余人。午後より余興。色留袖一〇人の謡曲、日本舞踊と、格調高い演目のあとは、肩のこらない本場のフラダンスをと考えたが、腰蓑姿では失礼とフォークダンスに変更。足立様が「ただ踊るだけじゃつまらないから寸劇をしましょうよ」というわけで、彼女がハワイ舞踊団の団長役。

「ハロー、ジャパニーズビューティフルレディース。マイネームイズエビーノテンプーラ。ア・ハピーランスイクラブフォーティイヤーコングラチュレーション」と怪しげな英語の挨拶を、一九年卒の本多美智子が、「コロンビア大学留学の語学を生かしまして通訳」と会場の笑いを誘う。

パフスリーブの白いブラウスに色鮮やかなギャザースカート、造花の髪飾りなどを、足立様の地元のグループからお貸しいただき、華やかな舞台を楽しむことができた。

人生の師として学ばせていただいた人。反面教師。「藍水くらぶ」は出会いの場であった。在籍した四半世紀が思い返される昨今である。

余興の「新版金色夜叉」

藍水くらぶ特集その三　記念大会回顧

「みどりゆかしき姫小松
いよよますますしげるべし」
想い出も深し　記念祝賀会

岐高女80周年&藍水くらぶ20周年

岐高女90周年&藍水くらぶ30周年

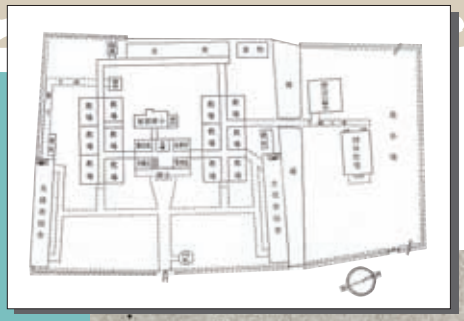
岐高女100周年&藍水くらぶ40周年

岐高女110周年&藍水くらぶ50周年

なおこの特集を製作するに当たっては、藍水くらぶ関係者の方々から貴重な資料を提供していただきました。ここに謹んでお礼申し上げます。

岐中・岐高女・岐高　校舎の変遷

米屋町～今泉から京町へ



移転直前に提出された
岐阜県華陽学校略図

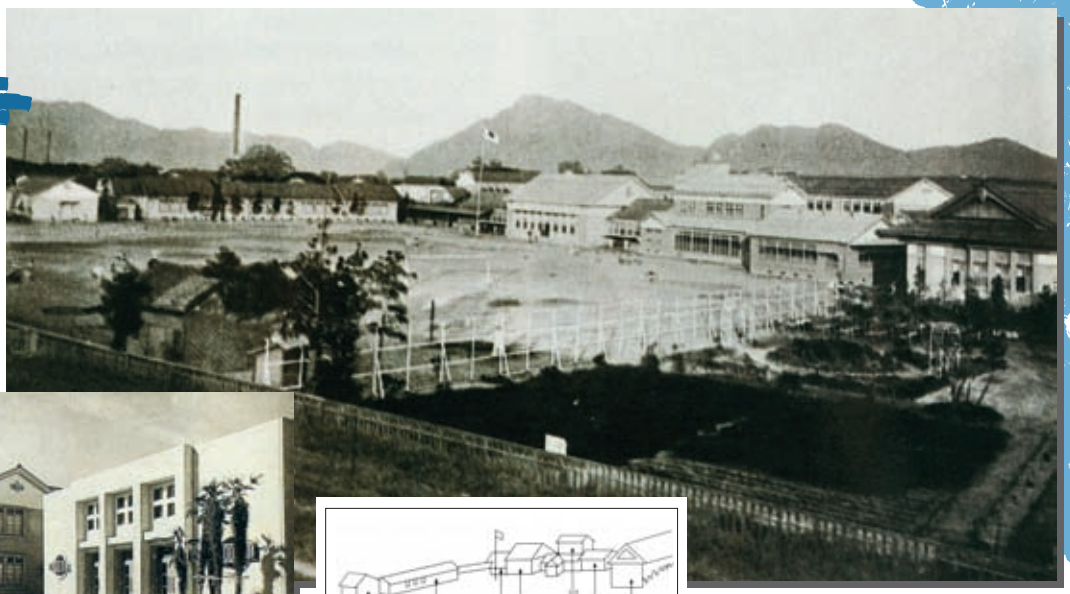
岐阜県華陽学校中等部　明治16年（1883）　京町へ移転直後

岐阜県岐阜中学校　明治32年（1899）～〈撮影年不詳〉

岐阜県尋常中学校　明治20年（1887）

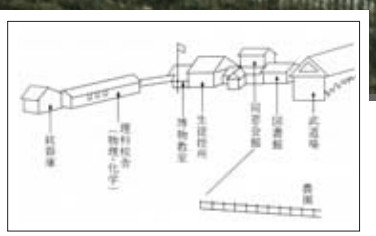
岐中

大縄場へ



岐阜県岐阜中学校
昭和13年（1938）大縄場へ移転後

岐阜中学校講堂　改築記念絵はがきより



鶯谷

岐阜県立岐阜高等女学校　開設当時　明治36年（1903）

岐阜市立岐阜高等女学校　開設当時　明治33年（1900）

岐高女

北野町へ

岐阜県岐阜高等女学校　大正13年（1924）頃

正門

岐阜県岐阜高等女学校　昭和7年（1932）

1932年の卒業アルバムより

雲雀ヶ丘へ

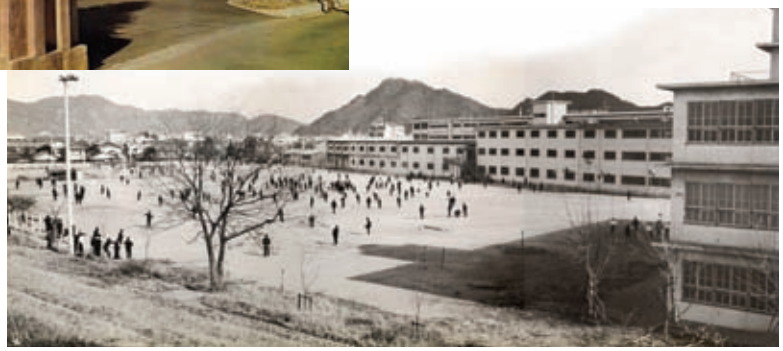
岐阜県岐阜高等女学校　移転改築落成記念　昭和17年（1942）
雲雀ケ丘校舎正面

記念館

大縄場
岐阜県立岐阜高等学校　昭和23年（1948）

昭和29年（1954）卒業アルバムより　校庭

玄関


昭和44年（1969）卒業アルバムより　校庭

玄関

岐高

2001年 校舎全景

新たな校舎へ

完成予想図

平成21年（2009）12月　工事中

資料：『岐高百年史』『岐阜高校創立120周年記念誌』『藍水』他　協力：清水スタジオ

校舎改築工事の進捗状況

～伝統の上に未来を築く～

本校校舎は、開校以来、移転や改築など数々の歴史を経てきましたが、昭和三一年から昭和四八年にかけて建設された現校舎は老朽化が著しくなり、現在改築工事が進められています。

校舎建設のコンセプト

新校舎建設のコンセプトは、「大樹の森のある学校」、「交流を中心に捉えた空間構成」、「情報メディアの活用を促すメディア・アベニュー」などとなっており、これに添って建設される図書館やマルチメディア関連諸室を配したメディア・アベニュー、校舎のエントランスであり生徒の憩いの場となる森と緑地としての並木道（プロムナード）は、新校舎の特徴を表すものとなります。

工事の概要

建設工事は、仮設校舎を設けることなく、学校運営に必要な機能を残したままで進められています。工事は、平成二〇年度から平成二三年度にかけて建物毎に順次行われ、平成二四年度には全面的に供用が開始される予定です。

Ⅰ期工事（平成二〇年四月から平成二一年三月）

・南舎（旧華陽校舎）の改修
・プールの解体　等

南舎は躯体を残し外装及び内装を刷新し、平成二一年三月二五日に特別教室棟として竣工しました。

特別教室棟には、理科（二階）、家庭科（三階）、芸術科（四階）の各教室が配置されています。三階にある多目的ホールは、Ⅱ期工事終了までは音楽室として使われていますが、工事終了後は集会や講演会、部活動の練習などで使用される予定です。また、一階には、保健室、教育相談室に加えて岐阜県高等学校校長協会と岐阜県高等学校ＰＴＡ連合会の各事務局が入居しています。

Ⅱ期工事（平成二一年四月から平成二二年七月）

・理科棟、北舎の解体
・管理棟、教室棟の建設　等

プール跡地には特別教室棟と接続する形で管理棟が建設され、それに接続して教室棟が配置されます。

管理棟は一階をエントランスホールとし、二階には校長室、事務室、校史資料室、大小会議室など、三階には、音楽室が配置されます。教室棟は、学年毎の別棟で三棟から成り、それぞれの一、三、四階に三部屋ずつホームルーム教室が配置され、二階には職員室、進路指導室、生徒指導室などが配置されます。各棟をつなぐ通路は、二階に設けられています。管理棟と全ての教室棟、メディア・アベニューがこの通路でつながっており、校舎全体を一体化して使用することができます。メディア・アベニューは吹き抜けの広い空間で、開放感あふれるつくりになります。

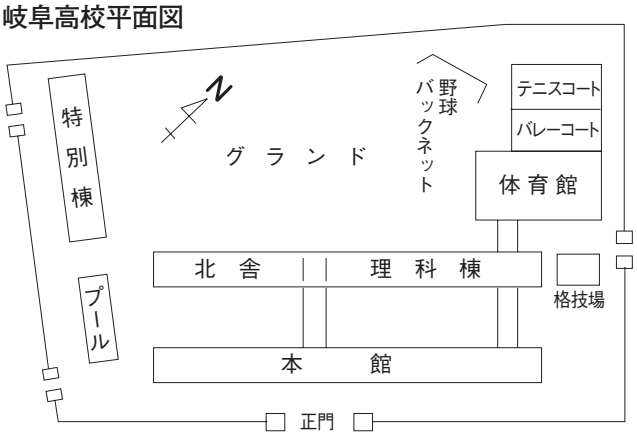
今年八月には新しい教室への移転が予定されており、文化祭以後には新たな環境での授業が本格的に開始される予定です。

Ⅲ期工事（平成二二年八月から平成二四年四月）

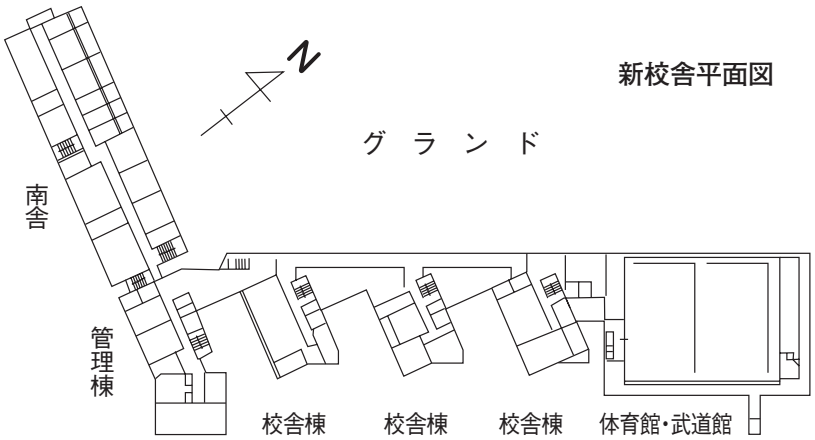
教室棟の東に、体育館、武道場が接続して建設され、平成二三年度中には供用開始の予定です。

岐阜高校は平成二五年度に創立一四〇周年を迎えます。新しい歴史が、新しい校舎とともに始まっていきます。

岐阜高校平面図



新校舎平面図



岐阜高のゆかり

作山　英雄
（在職　昭和40年～49年）

私は昭和四〇年四月から四九年三月までの九年間、岐阜高でお世話になりました。この間多くの人々と出会いを重ね、素晴らしい縁を頂きました。以下この縁に繋がる想い出を、四二年卒の諸君を中心に辿ってみたいと思います。

転勤した年の四〇年は、二年生の男女クラスの担任でした。HR委員長榊間君をリーダーとするこのクラスは、和やかな雰囲気の、親しみやすいクラスでした。

初めて接する岐高生は、純粋で学習意欲に燃え、天下の岐高生としての誇りを持っていると感じました。岐阜高では、始業式などの閉式時に、毎回全校生徒で校歌を歌います。新任式の閉式時に初めて聞いた生徒の声の大きく、誇らしげだったこと。「さすが岐高生だね」と、隣にいた菅原先生（一緒に大垣北高から転任）と思わず話したものでした。

二年目は持ち上がりで、三年生の文科系男子クラスの担任でした。今回の同窓会の当番学年です。

平成一二年度の『会報』にも書きましたが、人望のあったHR委員長の片山君がクラスをまとめ、勿論勉強にも熱心でしたが、男子クラス特有の明るい、活気のある楽しいクラスでした。細江現岐阜市長もこのクラスの一員です。氏は当時から、じっくり型の、バランスのとれた意見の持ち主でした。将来政治に携わり、活躍されるべき道が約束されていたのかも知れません。

今回二二年度同窓会総会の、会報部長を務める信田君もこのクラスの一員です。氏は水泳部の選手として活躍していました。積極的な生活態度は今も変わらず、市議としての活動もその表れだと思います。

これも前に、平成五年度の『一二〇周年記念号』に書きましたが、演劇部の顧問としての想い出も深いものがあります。当時の体育館は常設の舞台が無く、文化祭の折には、教壇めいたものを幾つか組み合わせて舞台を作り、徹明町の角にあった竹屋さんから太い竹を買って来て舞台の両端に立てて、それに田舎芝居よろしく、滑車で幕をつないで引き幕を作りました。勿論暗幕設備もなく、タクシーを頼んで、周辺の小・中学校や劇団はぐるま等から幕を借り集め、それを金物店から買ってきた洗濯挟みで壁面の防球鉄格子に挟んで、暗幕を設備しました。天井からぶら下げた照明器具などの準備も加えると、準備だけで三日間から四日間を要します。肝心の演し物そのものの練習は後回しになります。

しかしその苦労の甲斐あってか、昭和四五年度のコンクール中部大会で優勝し、次年度に埼玉で開かれた全国大会（現総合文化祭）に出場し、四校の優秀高の中に選ばれました。今でも時々思い出します。リーダーの森大吾君（四七年卒）の抜群の演技をはじめ、熱心な部員の協力があったことと、自分も若かったからこそ出来たのだろうと。その基は、男子部員の少ない中、女性のリーダーとして存在感のあった、昭和四二年卒の鷲見多津子さんや田中（旧姓前田）多栄子さん等が築いてくれたのだと思っています。

この学年でまた思い出すのは、ふとした縁で再び近づきになれた、二年生で担任した増本（旧姓鈴木）静子さんです。不思議な縁で、四五年卒の妹の佳代子さんも私のクラスでした。個別懇談には、いつもお母さんの和子様がお見えになりました。二人が卒業してしばらくの後、そのお母さんとひょんな所で再会し、その後も賀状のやりとりなどで繋がっていました。その静子さんの娘さん（寛子さん）が現在、大学で日本画を専攻されています（今年三月ご卒業）。その方が昨年（平成二一年）の院展に見事入選されました。夏に名古屋の松坂屋の画廊でグループ展を開きましたので私も拝見して来ました。さすがに専門に学ばれただけあって、我々素人の絵とは違い、個性的な、素晴らしい絵でした。将来が楽しみです。

こんなつながりも、岐阜高の縁があったればこそだと思います。

今岐阜高は校舎を新築中です。退職校長会の事務局もその一角をお借りしています。私は数年前からその『会報』の編集委員の一員に加わっています。四二年卒の岩田事務局長のお世話になりながら、新しい校舎の快適な部屋で、編集の仕事を手伝っています。

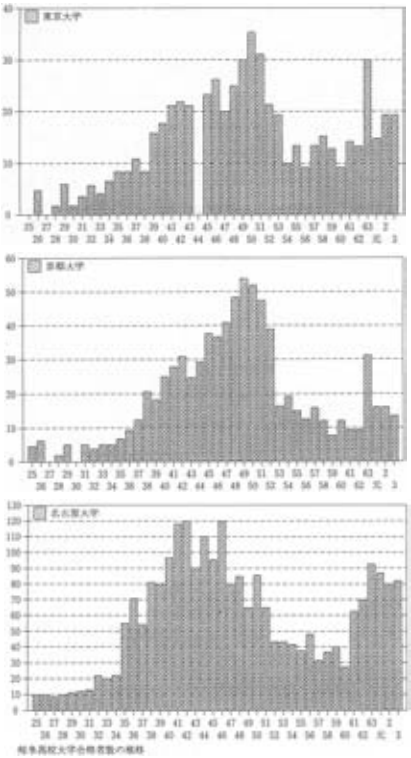
こうして、岐阜高との縁を深くかみしめながら、その縁に繋がる人々との出会いに感謝しつつ、岐阜高の弥栄をお祈りする次第です。

進学実績飛躍的に向上

近松　隆夫
（在職　昭和33年～47年）
（教頭再任　平成2年～3年）

昭和三三年度の岐阜高校の「教育方針」のなかに、「学区制の撤廃により一段の生徒資質の向上を見たため、学力的に十分な考慮工夫をこらすと共に、ややもすれば独善的に、利己的に陥る弊の起こらないよう社会生活の最も重要な協同意欲と実行力並びに健康教育の養成を指導せんとする」とあるように、教師も優秀な生徒たちをさらに鍛え上げようと指導に熱がこもった。

これ以降、進学実績は飛躍的に向上し、全国にその名を知られるようになっていく。



	東大	京大	名大	岐大	国立合計
昭和28年	1	1	10	50	68
29年	3	4	12	41	72
30年	1	0	13	50	76
31年	3	4	14	55	92
32年	5	3	23	36	89
33年	4	4	19	50	106
34年	6	4	23	49	117
35年	8	6	55	60	177
36年	8	9	72	92	265
37年	11	12	54	52	204
38年	8	21	82	48	240
39年	15	18	80	61	257
40年	17	25	96	53	279
41年	21	28	117	40	291
42年	22	31	121	53	286
43年	21	25	89	39	278
44年	**	30	111	53	305
45年	23	37	95	38	295
46年	26	36	119	38	350
47年	20	41	80	39	285
48年	25	48	85	36	323
49年	30	54	65	34	313
50年	34	53	87	27	348
51年	31	47	65	20	276
52年	21	39	43	37	252
53年	19	16	43	40	203
54年	10	19	42	46	192
55年	13	14	37	48	167

大学合格者数（各年3月）

人生のたからもの

早川　裕子（旧姓・松井）
（在職　昭和37年～40年）

私が英語教師として岐阜高校に在職したのは、昭和三七年四月から四〇年三月のわずか三年。四二年卒のみなさんが一年生のとき九組を担任しました。そのとき私は弱冠二四歳。新卒でオッカナビックリ岐高に入って三年目でしたが、この県下に名だたる進学校の雰囲気にも大分慣れ、担任経験も二年目で、張り切って新入生のみなさんを迎えたのでした。

それから四六年経った今も、当時のみなさん一人ひとりの顔が目に浮かびます。初々しく緊張感がみなぎり、信頼しきって教壇の上の私を見つめてくれた110個の瞳！　その無垢の輝きに少しでも応えられるよう、私は一生懸命でした。とかく受験勉強一色に染まりがちな進学有名校にあって、人生で最も多感で、吸収力旺盛なこの時期に、せめて一年生の時くらいは、楽しく思い出豊かな高校生活を味わせてあげたかったのです。

個性のある面白い子が多かったこのクラスは、最初から明るい雰囲気に満ち、まとまりもよくて、一学期で転校して行った級友のために、突然でもさっとみんなが協力して送別会を計画し、楽しく成功させられるような人間関係が育ってきました。

そうして迎えた夏休みには、クラス全員でハイキングに行こうと、みんなそれは熱心に綿密な計画を立てたのに、「他のクラスに影響を与えるから」といった理由で認められなかった、苦い苦い体験もしました。

唯一詰め込み教育から解放されて、生徒たちが自主的に取り組み、幅広い知識を得たり、考えを深めたりできる時間として、私たちはロングホームルームの時間を大切にしました。

若い先生たちを招いて、授業とは関係ない話を聞いたり、私が本を読んであげたり（確かモーパッサンの「首飾り」だったと思う）もしたけど、いちばんみんなが燃えたのは、当時続いていたベトナム戦争を取り上げたときでした。よくわからないから調べてみようというのがきっかけで、地図を描いて貼ったり、社会の先生を招いてベトナムの歴史について話してもらったりしました。質問もたくさん出たと記憶しています。テーマを決めて賛否両側に分かれてするディベートもよくやり、真剣に討論していたみなさんの顔が印象に残っています。

ところが、このクラスの団結が強まり、楽しい雰囲気になればなるほど、岐高の中では異色の存在として注目を浴びたり、にらまれたりするようになりまし

た。放課後男女いっしょにバレーボール（円陣パス）をしていたら、先生がたが窓からのぞいて、「アレはいったいどこのクラスだ？」「やっぱり松井先生のクラスだ」と話題になったり、国防問題を取り上げてディスカッションをしていたときは校長先生が見にいらして、翌日私は校長室に呼ばれました。あのようなことは、大学に行ってからすればよいと、注意されたのでした。

そして三月、思いがけない転勤辞令を受けて、私はみなさんと別れなければなりませんでした。泣いてくれた人も多かったことを思い出します。

みなさんが一年生の年の秋、私は結婚して岐阜市内のアパートに新居を構えたのですが、そこへ男子も女子も、ほんとによく遊びにきてくれました。それは、私が岐商に転勤してからも変わりませんでした。修学旅行から帰ると、「いっしょに行きたかった」とお土産を持って来てくれました。

我が家に遊びに来た担任の生徒たちと

その後私は、子どもができていったん教職を退き、名古屋へ、さらに東京へと居を移しましたが、どこへ行っても、誰かが訪ねてくれました。みなさんが岐高を卒業したときは、名古屋の家へ大勢集まってくださいました。どんなにうれしかったことか！

歳月は流れて、私は夫の転勤に伴ってイギリスやシンガポールに移り住んだりしながら二人の娘を育て上げ、個人教授や専門学校で英語を教える傍ら、ルポライターとして教育問題や高齢者問題をテーマに取材・執筆活動に従事するようになりました。

そんなある日、一本の電話がかかってきました。その昔担任だった生徒のO君からでした。彼はジャーナリストになっていて、私が出した『ルポルタージュ進学塾』という本の出版社の担当者と知り合いで、彼女から私の連絡先を知ったというのです。それにしても、その本の著者が昔の高校の担任だなんて、いくら名前が同じでも、すぐには結びつかなかったと思うのですが、それには、こんな裏話があったのです。

この新書を出したとき、週刊朝日の記者から取材を受け、かなり大きく写真入りで書評を出してくれたのですが、その記事がやはり担任だったU君の目にとまり、私の経歴と写真を見て驚いたといいます。で、その記事を切り抜いて岐高の学年同窓会に持って行き、O君の行動に結び着いたというわけです。まさに〝縁は異なもの味なもの〟です。

それからまもなく、東京の我が家に男女八人が来てくれて、ほとんど卒業以来の再会を果たしたのでした。それがもう二〇年近く前の話で、それからは、私が本を出すたびに在京のみなさんが集まってくださり、懐かしいひとときを楽しんでいます。

さらに五年まえ、すばらしい計画が実現しました。私が岐阜へ行った機会をとらえ、長年の夢だった（と、みんな言ってくれます）一年九組の集いが、開かれたのです。題して、「四一年ぶりのロングホームルーム」。全国から二六人も集まってくれました。そのスペシャルロングホームルームは、私を囲んで出席順（女子は旧姓）に並び、私が一人ずつ出席をとるという形で展開されました。ひげをはやしたドクターやら、大学教授やらもみんないっしょにあのころにもどって、笑い声の絶えない、短かすぎるひとときでした。私は涙を押えきれず、この日まで生きていてよかったとしみじみ思いました。

ちなみにくだんのO君は、一年生のときに体験したディベートがもとで社会問題に関心を持ち、ジャーナリストを志したのだと話してくれました。

私は今年七〇歳になり、古希と言われる歳まで生きてくることができました。この長い年月のなかでも、みなさんと喜びも悲しみも共に過ごしたあの一年間は、ひときわずっしりとした光を放ち、私の人生のたからものになっています。

今年、私は傘寿を迎えました。幹事学年である四二年卒の皆さんはそろそろ還暦を迎えられるのではないでしょうか。

この学年を受け持った時私は三六歳でした。三九、四〇年と卒業学年を受け持ち、翌年一年の担任となったのですが、どういう訳か、飛び級で五度目の三年の担任となりました。次の年四三年もつづいて三年でした。

学校関係の写真は、卒業アルバムとは別に整理してあったのですが、時が経ち、誰がどの学年というような、頭のなかでの記憶の整理が難しくなったので、必要な折に一見して分かるように、クラス写真だけを取り出し

て再整理をしました。

前任校で一、二年と持ち上がって岐阜高校に転じ、二年目から一六年連続でクラス担任を持ちましたから、一六枚のクラス写真、更に転勤先で三回、計二一枚のクラス写真があり、これを一冊のアルバムに収めました。

一、二年生はKG判と言われる小型の写真、三年生は卒業アルバムに使われるので八ツ切りの大きい写真です。一、二年生は写真が小さい所為もあるのですが、まだまだ少年少女であるのに対して、三年生はみな大人びてきりりとして見えます。

担任として真ん中に写っている私は、二二歳の青年から四四歳へとページを捲るごとにおじさんに変化して行きます。

このアルバムを作ったことによって一つ気付いたことがあります。この年までは学生帽を被って写っていることです。時代の流れとしてもう普段の着帽は自由化されていたのですが、公的な場では岐阜高校のプライドとして校章にこだわるところがあったのです。翌年からは無帽になっています。

四二年卒の皆さんとは一年だけの縁でした。授業で接したのはその内半分くらいの方たちですが、卒業アルバムを見ていると、みな見覚えのある顔です。

私の受け持った十組は、理系の男女クラスでした。みなどの顔も懐かしい。四〇年以上も前のことですが、一人ひとりの顔を見て、この子はどこへ、この子はどこへと進路先を思い出してみると昨日のことのように記憶が蘇って来ます。東大へ四名、私の受け持ったクラスとしては初めての女子合格者もいます。京大へ同じく女子を含めて五名。名大へ八名、北大、東北大、横浜国大、お茶の水大、奈良女子大、名市大医学部、岐阜大、岐阜薬大へ、更には公立女子短大、慶応大、同志社大などへもそれぞれ志望によって進んでいます。

蘇る記憶の中には、良い思い出もあれば、つらい思い出もあります。折角、本校で学びながら、家庭の事情で進学を断念した子、受験期になって父親を癌で亡くした子、親子関係で苦しんだ子、卒業後のことですが、折角京都大学まで進みながら、在学中に急性白血病で亡くなった子、更には若くて亡くなった人のことなどが思い出されます。

あれから四〇数年、若い時に進路に向かって懸命に情熱を燃やされた皆さんのことだから、還暦の歳を迎えられるにあたって、大方人生の目標も達成されたことと思います。

私は、自分の晩年のライフワークの一つとして喜寿を目指して六年がかりで書いた、『万葉集』の全文書写に、二回の展示の機会を得て一応の区切りを付け、書いたものは、やがて紙屑になるとは承知しながら、次いで『源氏物語』に取り掛かりました。『源氏物語』が書かれてから一〇〇〇年として、一昨年（二〇〇八）「千年紀」が行なわれました。それに因んで、書き写すことで、『源氏物語』の全文を辿り、紫式部の人間観察の深さや、批評精神の鋭さを改めて見直してみようと思ったからです。

書き始めて三年私も八〇歳になりました。『源氏物語』は書き写すにはあまりに長編で、どこまで書き進められるか、見当も付かなかったのですが、ようやく紫上の死を描く巻四十「御法」の巻、主人公光源氏の最後を描く巻四十一「幻」の巻まで到達しました。

後まだ残りはあるのですが光源氏の誕生から生涯を辿ることが出来たので気分的には一段落です。

幾年か前、名古屋で行なわれた四二年卒の学年同窓会に招かれた時、持病のある私は再びこうして出席することは難しいだろうと思い、内心ひそかに別れを告げて帰って来ました。

今、こうして原稿を書く機会が得られたことを嬉しく思っています。

平成22年度同窓会総会に寄せて

荒深　正武（在職　昭和59年～63年）

入試改革で群制度が廃止された昭和五八年から六年間岐阜高等学校に勤務し、その後数校を経験し、平成二一年から土岐紅陵高等学校に勤務しています。

当時の岐阜高校の職員室にはディレッタントな雰囲気があり、多様な話題が飛び交っていました。政治の話題や文芸に関しての造詣深いやり取り、教材研究から派生する専門的知識の応酬、一般にも普及し始めたコンピュータのプログラミングに関する話題など、活気に満ち溢れありとあらゆる知識の宝箱でした。

今も記憶に鮮明に残っていることがあります。昭和六〇年には茨城県つくば市で国際科学技術博覧会―EXPO'85が開催されました。岐阜県のある高等学校がこのつくば博に修学旅行に行き、宿泊先で大切な命が失われる悲しい出来事が起きました。この年、二年生の担任として四国、中国地方への修学旅行を引率しました。旅行中に、このニュースを知り職員、生徒共に大きな衝撃を受けました。まもなく旅行を終え、国鉄岐阜駅（国鉄が民営化されたのは一九八七年四月一日）にクラス一同が降り立ち整然とホームを歩いて改札に向かっていました。折りしも、該当校と岐阜高校が岐阜駅に帰着する日程が同じでした。突然、新聞記者が近寄ってきてインタビューをしようとしました。すかさずクラスの一人が「僕た

ちは岐阜高校でその高校ではありません」ときっぱり答えました。すると新聞記者は、無言のまま足早に去っていきました。一人の生徒の気転の利いた行動に救われ安堵しました。岐阜駅での解散後、迎えの保護者や報道陣でごった返していたためタクシーで帰路に着きました。乗車したタクシーの運転手は、教員がすべて暴力的な殺人者であるかのように厳しい口調で批判をするのをなすすべもなく無言のまま聞いていました。当時のマスコミ報道は熾烈を極め、教員への風当たりも厳しいものがありました。

今年度の総会運営を担う昭和六二年の卒業生の皆様は、中国の四神思のいうところの壮年期である朱夏の真最中であり、四〇代の齢を数えるにいたりました。多彩な才能を発揮した南方熊楠が『十二支考』の中で「ルーマニアの鳥獣譚」を引用し、一切の生物の寿命とその暮らし方を紹介しています。上帝世界を創った神が、最初に人を召し、考慮と判断の力、それから深き考えを表わす言語の働きを授けよう。地上のものはすべて人間に支配され、大地に生ずる生産物は人間の所有とし寿命を三〇年とする。これに対して、人は喜ばず、いくら面白おかしく暮らしたってただの三〇年ではつまらないと呟いた。次に驢馬を呼び、汝は苦労をしなければならない、常に重い荷を運び、鞭打たれ叱られ、休息はつかの間でアザミやいばらの粗食に耐え、寿命は五〇年としよう。これを聴いた驢馬は、そんなつらい目をして五〇年も長らえるのはいかにも情けない。特別の御情けで二〇年だけ差し引いていただきたい。そのとき、強欲の人間がしゃしゃり出て、その二〇年を頂きたいといって寿命が五〇年と修正された。その後、犬、猿が呼ばれそれぞれの生き方と寿命を授かるが、いずれの動物も与えられた寿命の幾らかをもてあまし上帝に返すと、人間が返納された寿命を貰い受け、人の寿命が百歳に定まりました。こうして人間は万物の長として、最初上帝から授かった三〇年の間は何一つ苦労なしに面白く暮らし遊ぶが、三〇過ぎてから五〇までは、驢馬から譲り受けた年齢であるから粗食に耐え労苦ばかり多く、将来の備えを蓄える事にのみ苦労する年代だといっています。

最後に、会員の皆様のご活躍とご健康を祈念し、あわせて母校岐阜高等学校の更なる飛躍を念願いたします。

懐かしい思い出

河村　泰子（在職　昭和59年～平成12年）

「十年ひと昔」の一〇年が、岐阜高校を退職してから経ってしまいました。月日の経つのは早いものです。一六年間岐阜高校にお世話になりました。歳月の篩にかけられて、とても楽しかったことばかりが蘇ってきます。

やはり第一番に授業が楽しかったことです。それまで、解らないことを教えて、苦労してきましたので、転任してきて教壇に立って、述べてきたことがよく解ってもらえて、授業がスムーズに進んでゆくことの、とても嬉しく、楽しかったことの思い出が第一に浮んできます。

古文や漢文は、自分の学力の無さもあり、授業中に鋭い質問を受け、答えられないこともありました。もう一度よく調べて、次の時間に答えながら、答えられなかったことを恥ずかしいと思う以上に、別の観点から捉えての疑問や質問には、なるほどと感心することが多くありました。

そんな時韓愈の「師の説」の一説に「吾が後に生まれてその道を聞くや、亦我より先ならば、吾従って之を師とせん。吾は道を師とするなり。それ何ぞ其の年の吾より先後生なるを知らんや」という文章があり、なるほどと納得しました。

次に楽しくまた新しい友ともなった人達のこと。

岐阜高校での校務は、渉外部が多かったのですが、その仕事の中で、自分よりよほど年齢の下の方々がPTAの役員をされていて、その人達と一緒に仕事をしながら、驚くことが多かったのです。男性も女性も実に活発で、そのユニークな発想や行動力をすばらしいものだと思いました。

子供たちの教育のあり方について、父母も教師も共に考えてゆこうと、創設した「PTフォーラム」は、その当時の教育に対する熱意の表れだと思います。共に工夫し実践していったことで、今でも役員の方々の中で、女性の方々とは仲よく友達として過ごしています。

もう一つ、この学校ならではのこととして、一人一人の生徒の成績について、たとえ悪くても、叱ることなく、伸びる可能性を秘めた人としてみていたことです。事実そのように、それぞれ目指す方向へ進んでいってくれました。

思い返してみますと、何だか「理想の教育の場」という面を持った学校だったと思います。

一昨年の夏、岐高に赴任して初めて担任を持ったクラスの同窓会がありました。皆、「今年は不惑」と口にしながら、少しも変らぬ明るさと意欲を持って、社会の中堅として活躍しているようでした。自分の年も忘れて、つい自分も若い気持になってしまっていました。

特別寄稿

受験参考書再び

古田　肇　昭和41年卒

本が売れないと言われる中で、「学ぶ本」すなわち、なつかしの大学受験参考書や高校教科書がブームである。

一昨年秋、山崎貞『新々英文解釈研究』が復刊した。あの『やまてい』である。装丁も当時のまま。本の帯には「伝説の参考書復刊」とある。私も、ノスタルジーに抗しきれず、つい買ってしまった。岐高の恩師の口癖「英語は暗記科目である」を思い出しながら、ページをめくってみる。

この『やまてい』で、なつかしの参考書ブームに火がついたそうだ。小西甚一『古文研究法』は今や改訂107版、そして『古文の読解』も文庫化された。著者と受験生が会話するというスタイルもなじみ易く、「かつての大学受験参考書のレベルの高さに驚嘆すること必定の一冊」などという書評も出た。

次いで、社会人のための高校教科書に関心が集まっている。昨年末から書店の新刊コーナーに、『もう一度読む山川日本史』、『もう一度読む山川世界史』が山積みである。いずれも山川出版社刊。折からの歴史ブームもあって、すでに、それぞれ二十万部近い、文字通りのベストセラーになっている。さらには、副読本の『歴史年表・地図』(吉川弘文館)まで復刊している。

こうなると、今度は、「よみがえってほしい教科書」探しが始まっている。例えば、国語の教科書。書評によれば、「一冊に古典から現代小説までぎっしり詰まった理想のアンソロジー」という次第である。

このような参考書、教科書への関心は、まことに面白い社会現象で、どうも団塊の世代がこれに大いに貢献しているようだ。

まず、なつかしさ、青春プレイバック。お世話になったような、いじめられたような気分、本の装丁、字体、注釈、図版などすべての雰囲気が何ともなつかしいのである。読むにつれ、岐高の旧校舎、同級生、そして恩師の先生方が浮かんでくる。「助さ」、「アンパン」、「ダランピン」(失礼!)…。果ては、舟木一夫の「高校三年生」。

次に、新しい発見や思いがけない味わい、読み物としての面白さ。警句に富んだ英文解釈の例文、古典文学へのいざない、日本や世界の歴史をバランス良く俯瞰できるコンパクトな構成など、結構納得できるところがあるではないか。

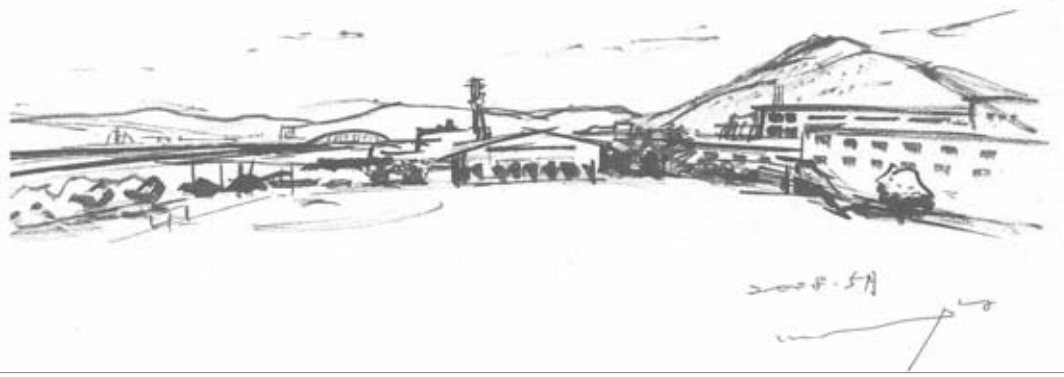
そんなわけで、私にとっては、忙中に一服の清涼剤を見つけたような思いである。

ところで、あの本はどうなっているのか?あの頃の学生服のポケットの友、赤尾の『豆単』は?

今や、受験用英単語コーナーには、『ユメ(夢)単』、『ワン(一から始める)単』、『キク(聴く)単』など、工夫を凝らした本が所狭しと並んでいる。そして、その端っこに、縮こまったようにあの『豆単』が置いてある。目下の受験参考書ブームには乗れないようで、少々痛々しい様子に見える。

以上の話を岐高の後輩でもある私の秘書に話したところ、早速、山川の歴史教科書を買ったとのこと。さて皆さんは?

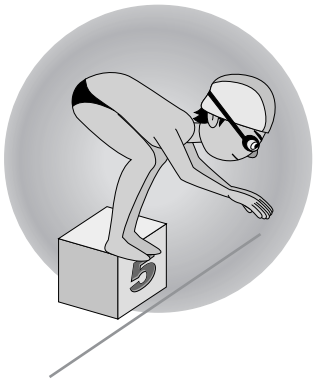
同窓会名誉顧問／岐阜県知事



岐高部活今昔

”文武両道“
岐阜高校の伝統は
この言葉の中にあります。
現在、文化系のクラブは一五クラブ、
体育系は一四クラブあり、活発な活動を
続けております。
岐中、岐高女の時代から連綿と
活動が続けられている伝統のクラブ、
部員がいなくなり廃部となったクラブ、
新たに活動を始めたクラブ…。
今回は、
OBと現役の交流活動を行っている
体育系の二つのクラブを紹介します。

水泳部



プールに想いを馳せて

木下清二郎
昭和27年卒

岐阜高校（岐中）創立七〇周年の昭和二四年、水泳部が岐阜県で始めて優勝しました。当時の伊藤校長、顧問の坪内広次先生、部長の酒井先生方が非常に喜んで下さいました。

私が入学当時は、学校にプールが無かったので、昭和二四年四月から裏の長良川の河原で服をぬぎ、対岸の沈床で練習をしていました。沈床の間隔は約二〇m位有ったと思います。

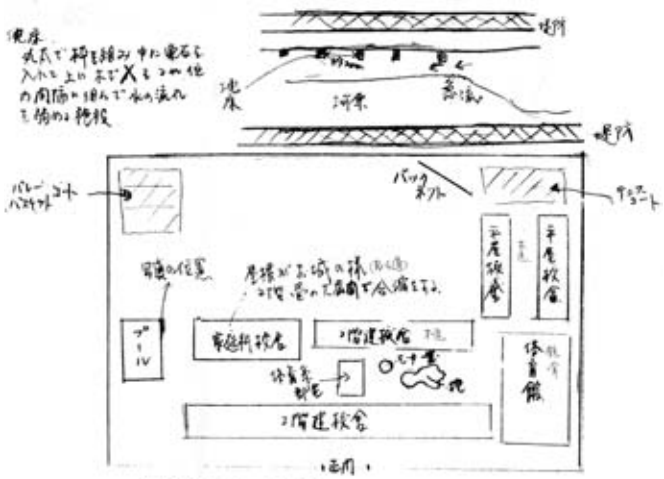
試合が近づきますと、白山小学校のプール、加納高校のプールを借りまして練習しました。歩いて行くので練習の疲れで帰りの歩きが非常に辛かった事を覚えています。

当時、練習はサラシの謂ゆる六尺フンドシでした。試合には絹の黒パンツでしたが、高価でしたので大切にしていました。

一日の練習量は自由形で五〇〇〇m～八〇〇〇mでしたが、唯、一五〇m・七五m・二五mの各ダッシュが四、五本毎日有りました。毎日の記録帳より遅いとキツク叱られました。

写真前例一番右（木下）
1年生　4名
2年生　6名
3年生　5名
先　輩　1名

伊藤校長、坪内先生達に、水泳部の練習の苦労が大変と、PTA、県の方へ非常な働きかけをして戴きました。戦後の経済が大変な時に、プールは建設出来ないが、近隣の防火用水と云う事で、大突貫工事で昭和二五年四月に完成しました。プール開きには、ベルリンオリンピック女子平泳ぎ二〇〇m優勝者の前畑秀子（兵藤）さんに初泳ぎしていただきました。そんな歴史のあるプールが今は無いと思うと寂寞とした気持ちです。



昭和25年当時の配置図

岐高プール解体と水泳部の躍進

中島　洋岳
平成14年卒

平成二四年のぎふ清流国体に岐阜高校から選手を輩出できるか？水泳部はその力を充分に持っている。

平成二〇年八月、雨の中、関係者に見守られながら、岐阜高校プールの解体工事が行われた。体育の授業や水泳部の活動の場、OBと現役の交流の場として六〇年に亘って在り続けた「日本最古のプール」は瞬く間にガレキの山と化した。現在は新校舎の建築工事が行われている。

岐高校舎の全面建替えの起案があったのは八年ほど前。その頃水泳部は東海総体二三名、全国総体二名出場、国体に三年連続出場の実績があった。水泳部員一同は当時の校長先生に懇願してプールの存続を求め、一時はプールの新設も含め前向きな返事を頂いていたものの、その後数年間にわたり新校舎の構想が練られる中でプール存続の案は立ち消えとなり、部はプール無き水泳部となった。

とりこわされたプール

部の存続自体も危ぶまれたが、現役部員達は活動拠点が無くなっても市内外の学校のプールや公営施設を渡り歩き練習を続けている。平成二一年度の実績は、県大会で女子リレー優勝、男子リレー準優勝など強豪校入りを果たした。

プールが無くなった今でも毎年新入生が入部し、二十名以上が在籍。先輩と後輩の仲も良く、緩急自在で、全員が目標を持ち、良い雰囲気で活動ができている。

今後の課題は、やはり練習拠点づくりである。プールが無いのは、野球部にとってグラウンドが無いのと同じであり、活動を続けていくためにはシーズンごとに自分たちの練習場所を探し回らなければならない。岐阜市の市街地には公営プールが一つもないため、五キロ以上離れた場所で練習する事が多い。

外部のプールを借用するため毎週二～三万円（年間百万円）の費用が新規発生しており、生徒負担となっている。又、学校から練習場所までの移動とその後の帰宅で、殆どの生徒が一時間以上余計に時間をかけている上、バス代等の交通費もかさむ。

平成21年　長良川スイミングプラザにて

民間の施設は平日の夕方は子供や高齢者の利用が多く、外部者として入場する場合は使用コースが限られ、十人で一コースに入るなど、肩身の狭い思いをしている。

約三ヶ月ごとに活動拠点を移しながら練習するのでは、水泳の練習はできても仲間との思い出作りができない。校舎や体育館のように、仲間とともに汗を流し、思い出として残る場所で活動を続けてもらいたい。

水泳部は昭和一四年から七〇年以上の歴史があり、部員もこれまでに国体、全国総体に数多く出場、平成五年には全国優勝の実績もある。

現役生徒からは「自分達のプールが無くなり、活動が困難になった」「学校の近くにプールがあれば、もっと練習し、もっと勉強の時間もとれるのに」という声が上っている。

水泳部OB会では「以前と変わりなく部活動ができる状態」への復帰を目指し、活動サポートをしている。

昨年度は生徒・保護者の負担を軽減するため「外部プール使用料援助」という形でOB有志から協力金を出したり、練習場所を生徒と一緒に探したりしましたが、更に、できるだけ早期に岐高生がお金と時間をかけずに部活動ができる場所を求め、可能性を探索している。

岐阜高校同窓会の皆様に、現役生徒達が逆境を乗り越えて努力を重ねている様子をお伝えしたく、筆を執らせていただきました。プール無き水泳部の今後の活動へのご理解、ご支援、ご協力をいただければと思います。

岐高水泳部コーチ
県強化運動部指導者

毎年夏行われていた現役・OB親睦水泳大会

サッカー部

岐阜高校サッカー部の今昔とOB会に想う

荒川 正儀
昭和30年卒

岐阜高校サッカー部は、「岐阜のサッカー概略史」によると岐阜中学において大正八年に創設された蹴球部がそのルーツではないかと思う。その後、昭和一二年一〇月発行の「華陽一〇〇號」に岐阜中学・蹴球部の記事が残っている。この年、岐阜中学は大垣蹴球団主催の蹴球大会で優勝、名古屋高商主催の全国中等学校蹴球大会で準決勝進出、浜松高工主催の中部中等蹴球大会で優勝するなど、大活躍されている。

時を経て、昭和二四年には戦後初の全国高校蹴球選手権大会に出場し、歴史と伝統を受け継いできた。その後も三岐大会及び東海大会には岐阜県代表として常に出場し、良い成績を収めてきた。

特に、私達の高校時代（昭和二九年頃）には、常に先輩がグラウンドに姿を現し、我々を激励された。夏休みの合宿ともなると多くの先輩達が指導に参加され、「ボールを蹴ってみれ！　もっと速く走れ！」など激しい言葉を掛けて叱咤激励された。苦しい練習もあったが、仲間と共に汗を流し、ボールを蹴り、走り、競う中で自分なりに仲間との共同活動の喜びを感じ、部活以外では精神的な悩みを打ち明けながら過ごした時間は懐かしいものであった。こんな高校生活から学んだものは多く、社会へ出てからも協調性や努力の大切さを実感し、また仲間を気遣い忍耐強く活動できるようになった。

更に三年後の昭和三二年には、岐阜県予選で岐阜高校は岐阜工業高校を破って優勝し、三岐大会に出場している。

このような輝かしく長い歴史を持った岐阜高校サッカー部であるが、年代を超えた部員同士の縦の繋がりは無く、個別に昭和二〇年頃卒業の先輩達が同好会的集まりで旧交をあたため、親睦を深めていた程度であった。そこで、時代は違っても同じグラウンドで汗と涙を流し、必死にボールを追いかけ、蹴り合った部員同士の縦の繋がりを作ろうと、平成元年四月六日に赤尾（昭和二八年卒）、村瀬（昭和二九年卒）、荒川（昭和三〇年卒）、大塚（昭和三一年卒）、浅野・中野（昭和三二年卒）等が発起人となり、新しく平成の岐阜高校サッカー部OB会を村瀬善紀氏を会長として組織化した。

発足当時は三〇数名の参加者を数えるのみであったが、その後昭和四〇年岐阜国体当時の岐阜高校サッカー部顧問であった市川先生を始め関係者の力を借りながら各年代の代表者を選ぶなどして、OB会員の拡大に努め、同時に会員名簿を整備していった。OB会の目的を「積極的にサッカー競技の発展に寄与し、会員の教養を高め、会員相互の親睦を図る」とし、その事業として「岐阜高校サッカー部活動を支援する」等と決め、年一回の定期総会開催を実行することとした。数年後には趣旨に賛同される方も増加し、更に毎年の卒業生も会員登録をすることによって、現在では五〇〇名を超える会員数となっている。

毎年夏の定期総会には、発起時メンバーの赤尾、村瀬他各氏を始め広い年代にわたって多くのOB達が集まり、会員同士の親睦・交流を深めると共に現役選手の交流試合を観戦する機会を得ている。一日中、楽しくOB会員の昔話や、それぞれの現役時代における活躍の話題に花が咲き、懐かしい会話が弾む。特に岐阜高校のモットーである「文武両道の精神」を振り返り、学生時代の活気溢れる情熱的な雰囲気を忘れることなく、懐かしく交流を深めている。

創設以来二二年目を迎える岐阜高校サッカー部OB会では、柳瀬・第四代OB会長を中心に役員が一丸となってOB会の運営に情熱を注ぎ、会の目的である「会員相互の親睦」と、事業としての「現役サッカー部員への激励・支援」のために様々な事業を企画・運営している。

一昨年からは、現役選手への励みを助長し、気迫溢れるプレーに磨きがかかるよう、愛知朝鮮中高級学校との親善試合を企画実行し、定期戦として根付かせつつある。

又、岐阜県の女子サッカークラブ・FCフロールとOB会員との試合を企画することにより、高年齢者のOB会員にも参加し易くしており、年々、夏のOB

会定期総会に参加する会員が増加し、内容のある充実した会となりつつある。

これからも、岐阜高校サッカー部OB会が益々発展し拡充することを願っている次第です。

岐阜高校サッカー部

柳瀬 秀治
昭和42年卒

今でも覚えている試合がある。大会の名前は忘れたが、今回は組み合わせが良く、うまくいけば決勝までいけるかな、と思っていた途中の組み合わせで相手高は長良高校。力は岐阜高校が上で、実力通り、岐阜高校はシュート、チャンス、またシュート。しかし入らない。今の日本代表と同じようにゴールマウスに飛ばないか、或いはキーパー正面ばかり。前半は0対0で終わり、後半になっても優位に攻めてシュートを打ちながら入らない。そんな時、フォワードがシュートを失敗しても「あはは、外れた」と能天気な声。ディフェンス（当時はバックスと呼んでいた）の私は頭にきて、早く入れろよ、とわめいたか、それとも心の中だけで思ったかは、今は忘却の彼方。そんな流れで時間は経過して後半も半ば過ぎ、長良高校がその自陣から大きく前方に蹴ったボールが、ディフェンスである私と相手フォワード選手との間の微妙なところに飛んできた。私の後ろにはキーパーしかいない。キーパーも構える。私はダッシュして一瞬早くボールにタッチでき、思い切りクリアするつもりで蹴った。ところが、長良高校の選手も必死で追っており、私の蹴ったボールは、二mくらいの至近距離に迫っていた長良高校の選手の顔面を直撃。ボールは顔面から跳ね返って、キーパーの横をころころとゴールに向かって転がり、ゴールに入ってしまった。長良高校の選手は脳震盪で倒れてしまったが、しっかりゴールを決められてしまった。その後も残り少ない時間を懸命に攻めたが、無常のホイッスル。そんな訳で絶好の組み合わせの大会で良い成績を残すチャンスを逃してしまった。

岐高現役サッカー部員に激励品のボールを提供
左が著者

今、私は岐阜高校サッカー部OB会会長を務めており、毎年夏にOB会として、色々の年代を交え、又かつて指導していただいた先生方にも参加いただいてフレンドマッチを企画し、多くのOBの協力を得ながら楽しんでいる。OB同士の昔話や、最近の岐阜高校サッカー部の活躍の話を聞くと、私の経験のように、「今年の組み合わせは良いから、良い成績が期待できそうだ」、という時に意外なチームにコロッと負けてしまう、ということがけっこうあるようだ。

OB会のプレー風景

岐阜国体を控えてサッカーの強化選手として岐阜に来られた先生のボールリフティングを見て感動し（その頃はサッカーという競技も未だあまり普及しておらず、ましてボールリフティングは魔法のように見えたものです）、それがきっかけでサッカーに関わり、多くの試合を経験してきたが、今でも忘れない苦い一敗だった。

写真は、昨年の岐阜高校サッカー部OB会に集まった面々と、還暦を越えた、或いは還暦間近の選手達のプレーである。

このOB会も今年は二二年目を迎える。時代は異なっても同じグラウンドで汗を流した面々が年代を超えて交流できる場としてのOB会が今後も継続することを願いつつ筆を措く。

2009年サッカー部OB総会の集合メンバー